

志摩市の将来について考える

－ 30歳という世代の皆さんへ －

平成28年2月13日

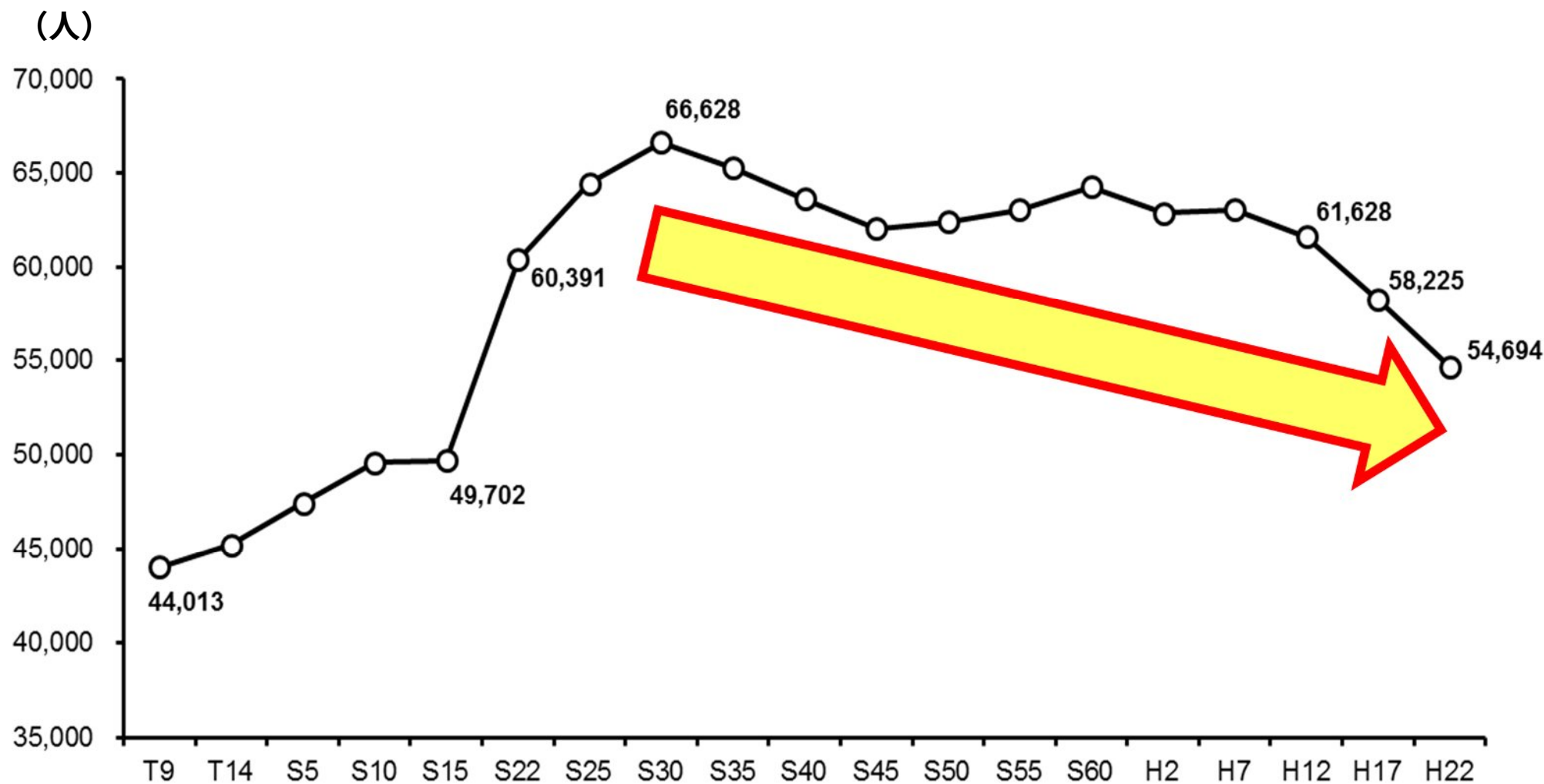
志摩市 企画部参事
加藤倫之（かとう のりゆき）

- 1．志摩市の人口減少が問うこと**
- 2．志摩市の可能性**
- 3．これからの5年間**
- 4．志摩市の地方創生**

1．志摩市の人口減少が問うこと

○ 志摩市の人口減少

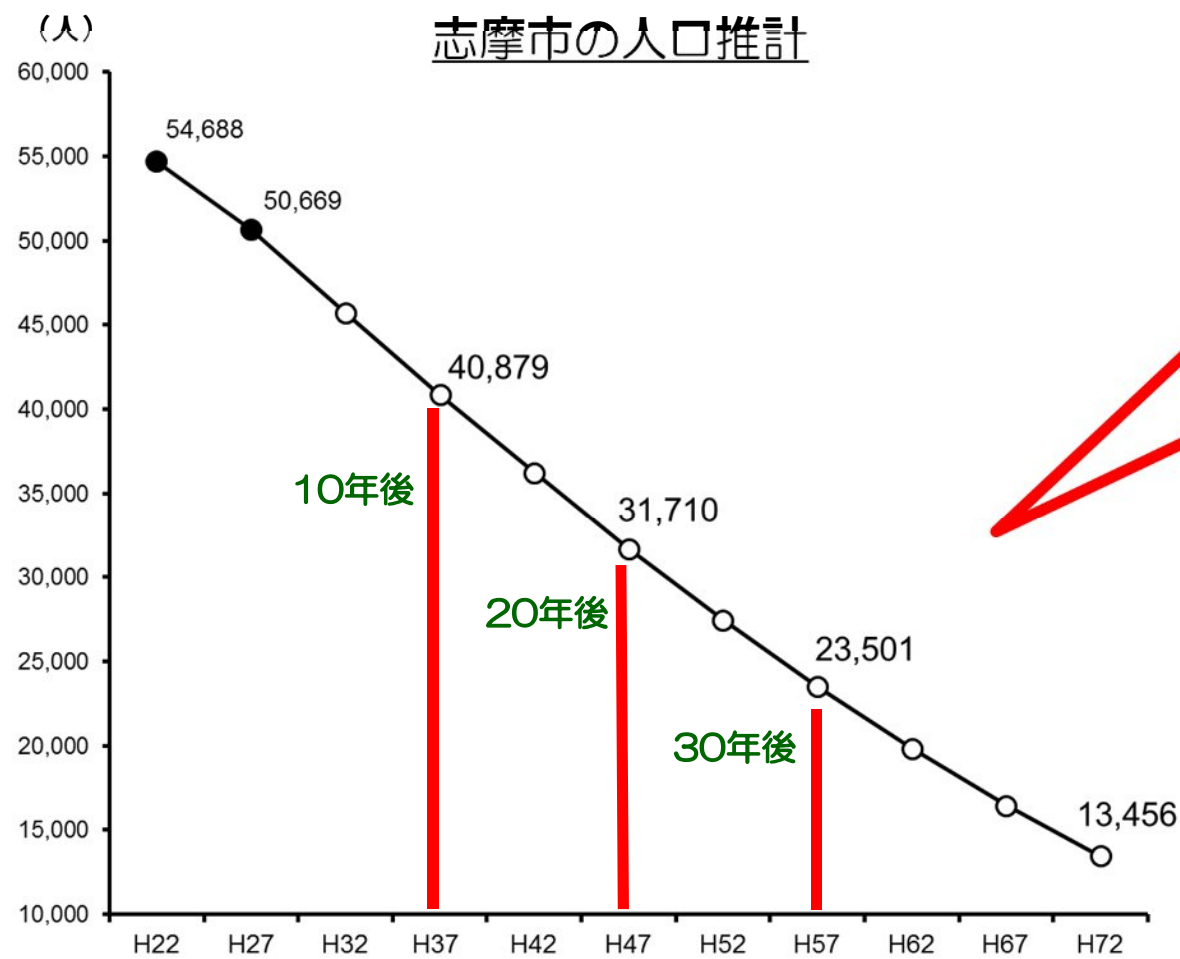
- 半世紀以上前（昭和30年頃）から人口減少が続いている。
- 人口減少に歯止めをかける = 半世紀続く流れを変える



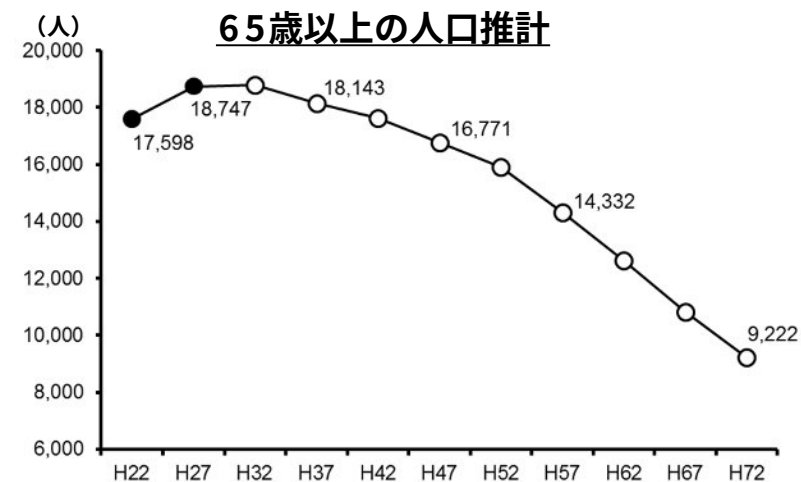
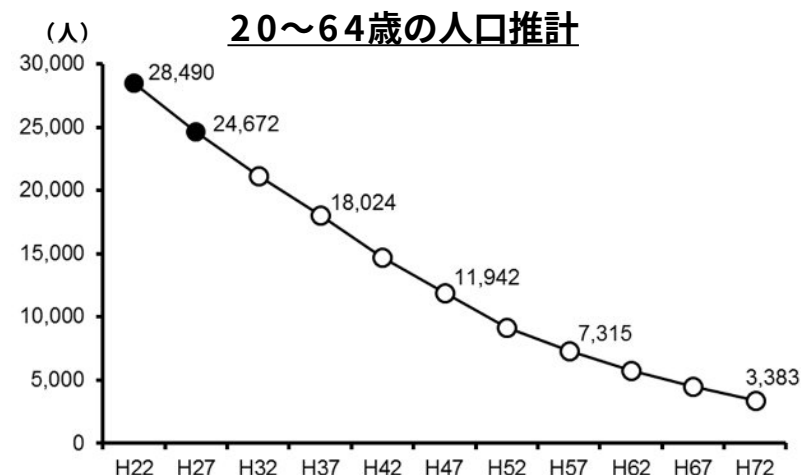
資料出所：国勢調査

○ このままの人口減少が続くとどうなるか？

- 45年後には人口が13,500人以下になる。
- 20～64歳が急減して、65歳以上も現状をピークに減少する。



資料出所・志摩市

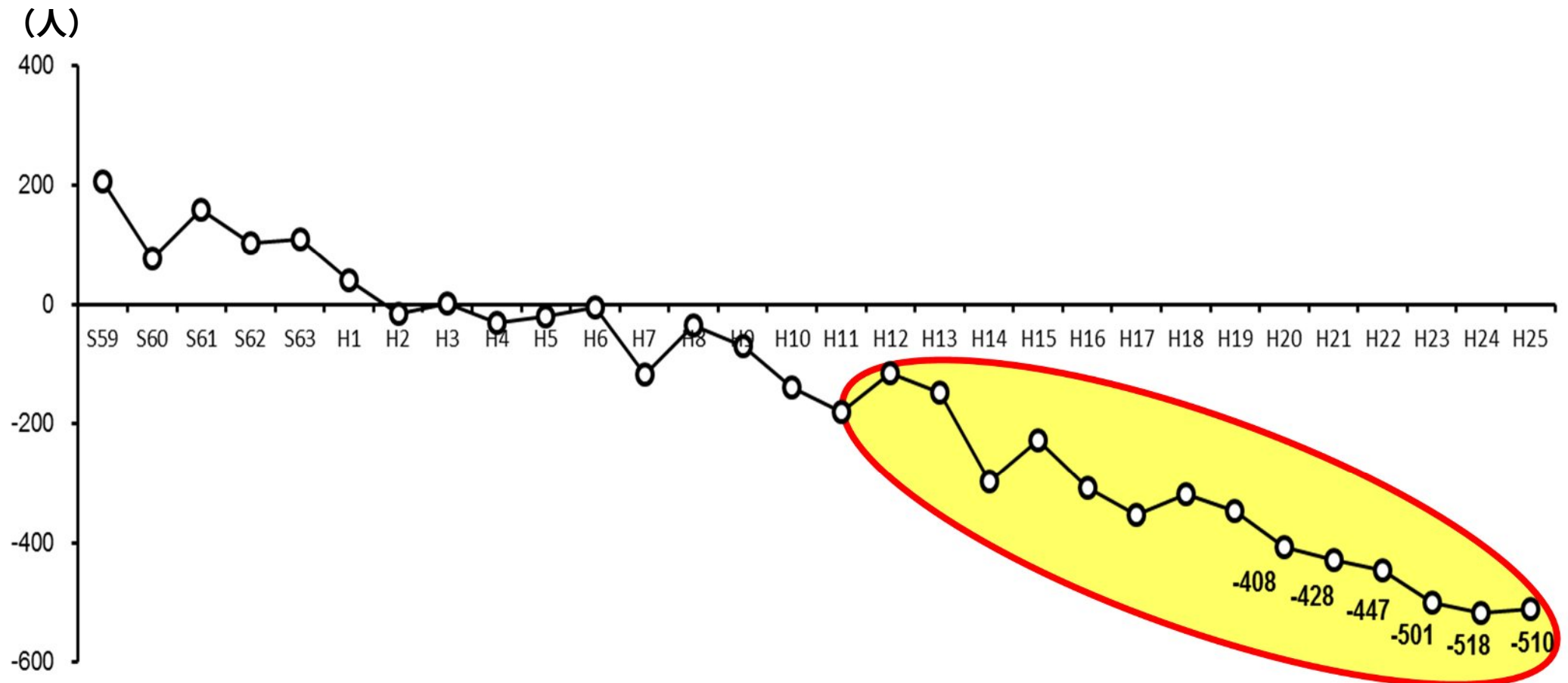


○ 志摩市の人口が減る理由（１） → 【自然減】

→ 「生まれる人」よりも「亡くなる人」の方が多い。

→ **年間500人程度の減少**

（出生者：300人以下、死亡者：800人弱）



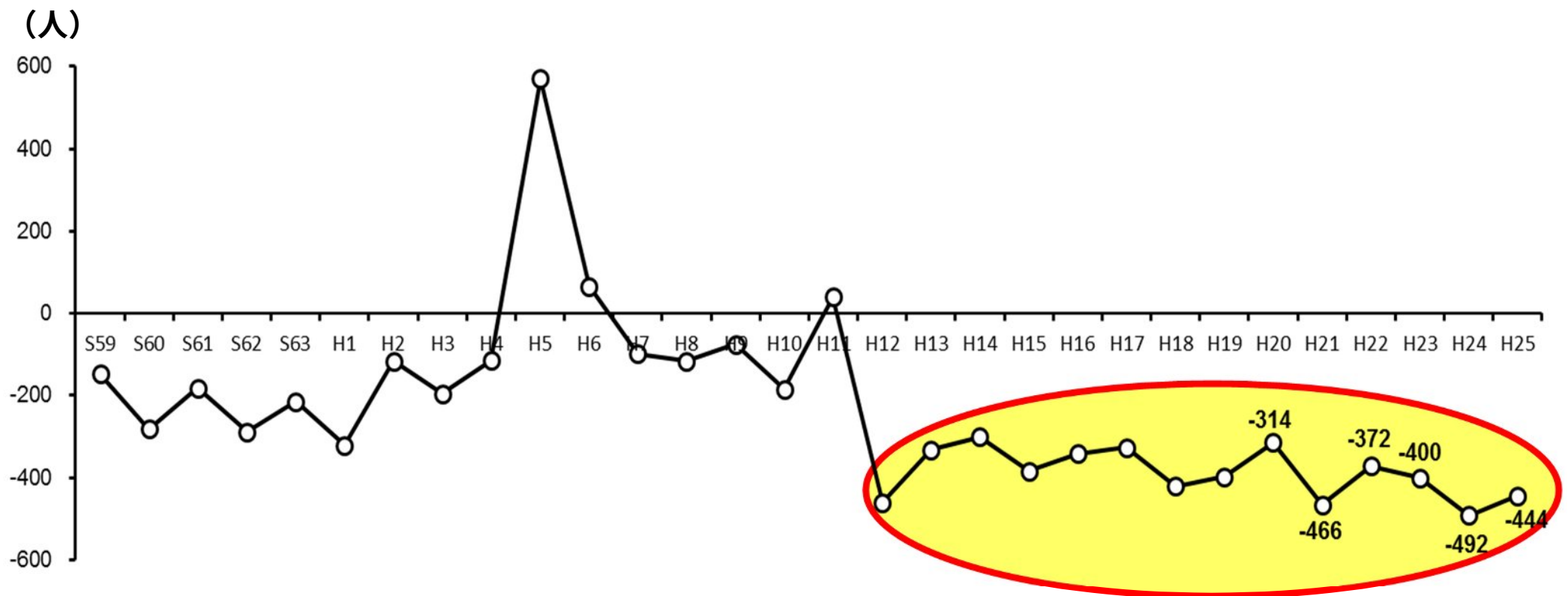
資料出所：三重県月別人口調査

○ 志摩市の人口が減る理由（２）→【社会減】

→ 「来る人」よりも「出ていく人」の方が多い。

→ **年間400～500人の減少**

（転入者：900～1,000人、転出者：1,400～1,500人）

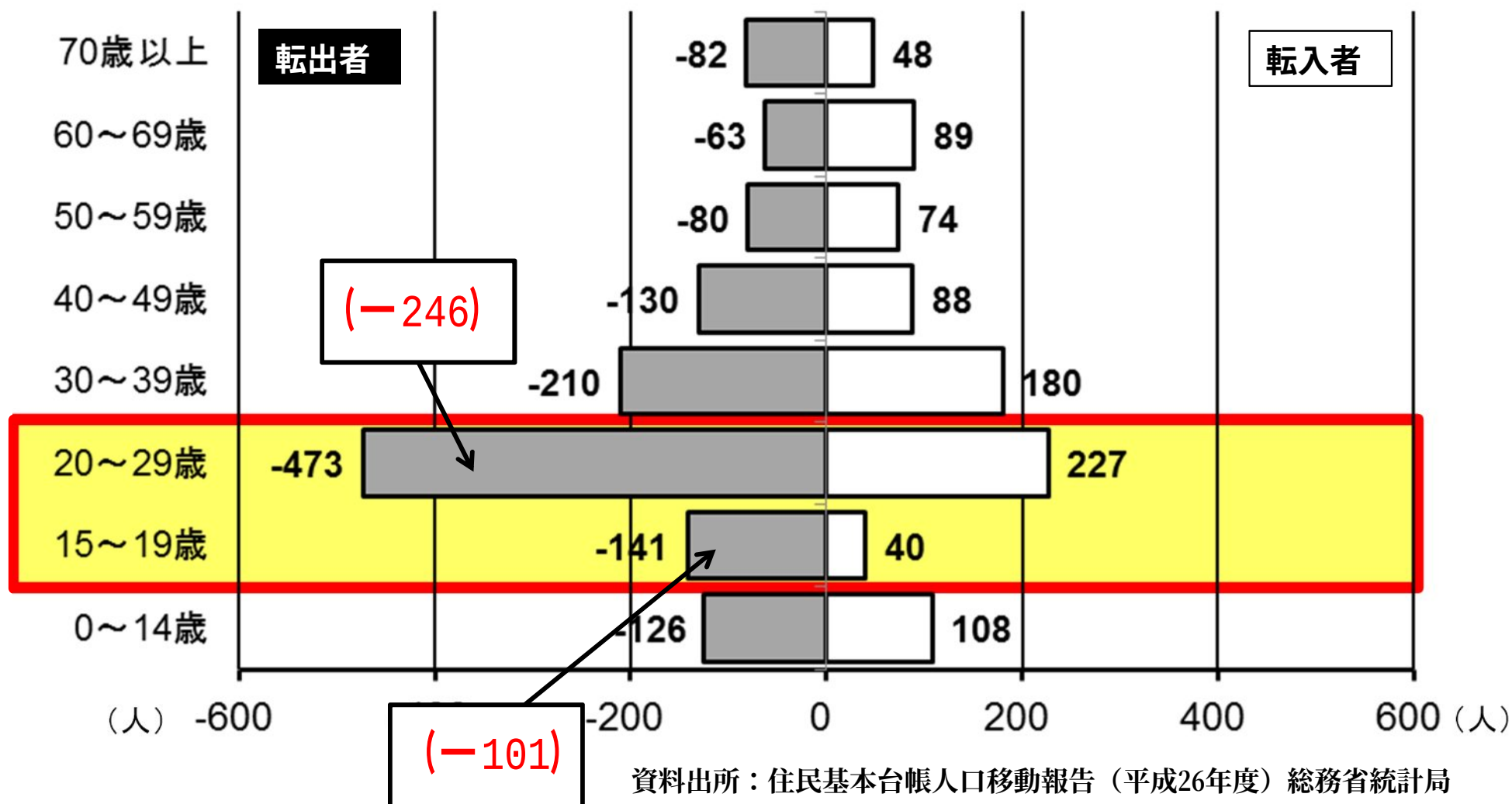


資料出所：三重県月別人口調査

○ 志摩市の社会減の状況

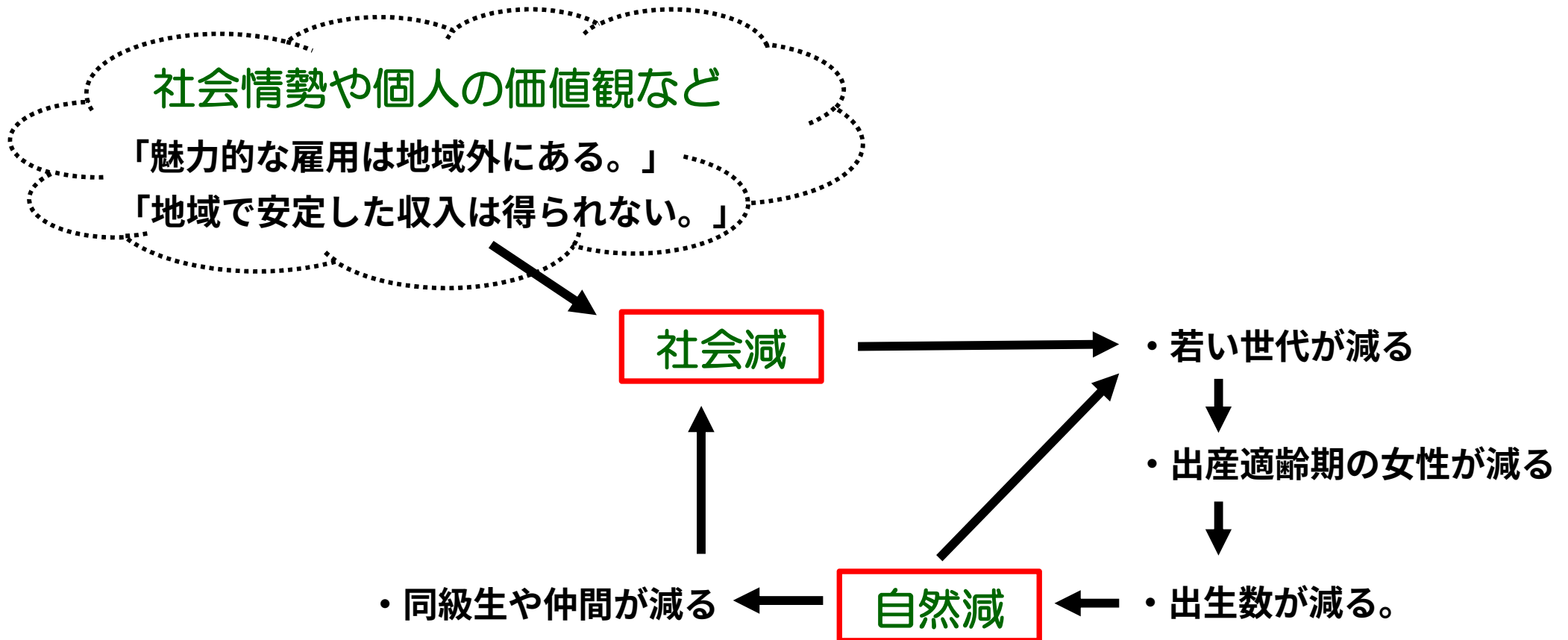
→ 志摩市から出て行ってしまっている世代は？

→ 15～29歳の若い世代が中心（社会減の70%程度）



○ 志摩市の人口が減ってしまう仕組み

- 様々な要因を背景に「社会減」が発生する。
- 「社会減」が、出生数を減少させて「自然減」を強める。
- 「自然減」は、さらに「自然減」と「社会減」を強める。

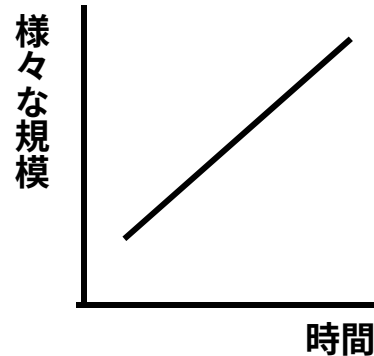


○ 志摩市に求められていること

→ 「半世紀以上続く社会の流れを変える」…とは？

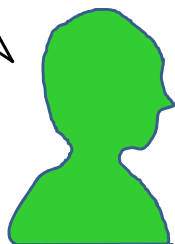
→ **社会と価値観の变革を起こし、それを受け入れること。**

成長社会



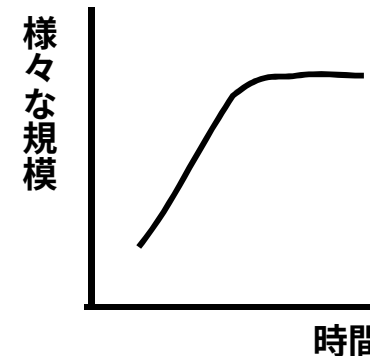
- ・ 量的拡大を追求する社会
- ・ モノもヒトも増えていくことを前提とした社会

- ・ 都会の方が格好いい
- ・ 大きな会社に雇用されるのが成功
- ・ 田舎じゃ何にもできない



価値観

成熟社会



- ・ 量的拡大を追求する社会が終息に向かうなかで、精神的豊かさや生活の質の向上を重視する社会

- ・ 豊かに暮らすことが格好いい
- ・ 自分の納得することをするのが成功
- ・ 都会は暮らしにくい



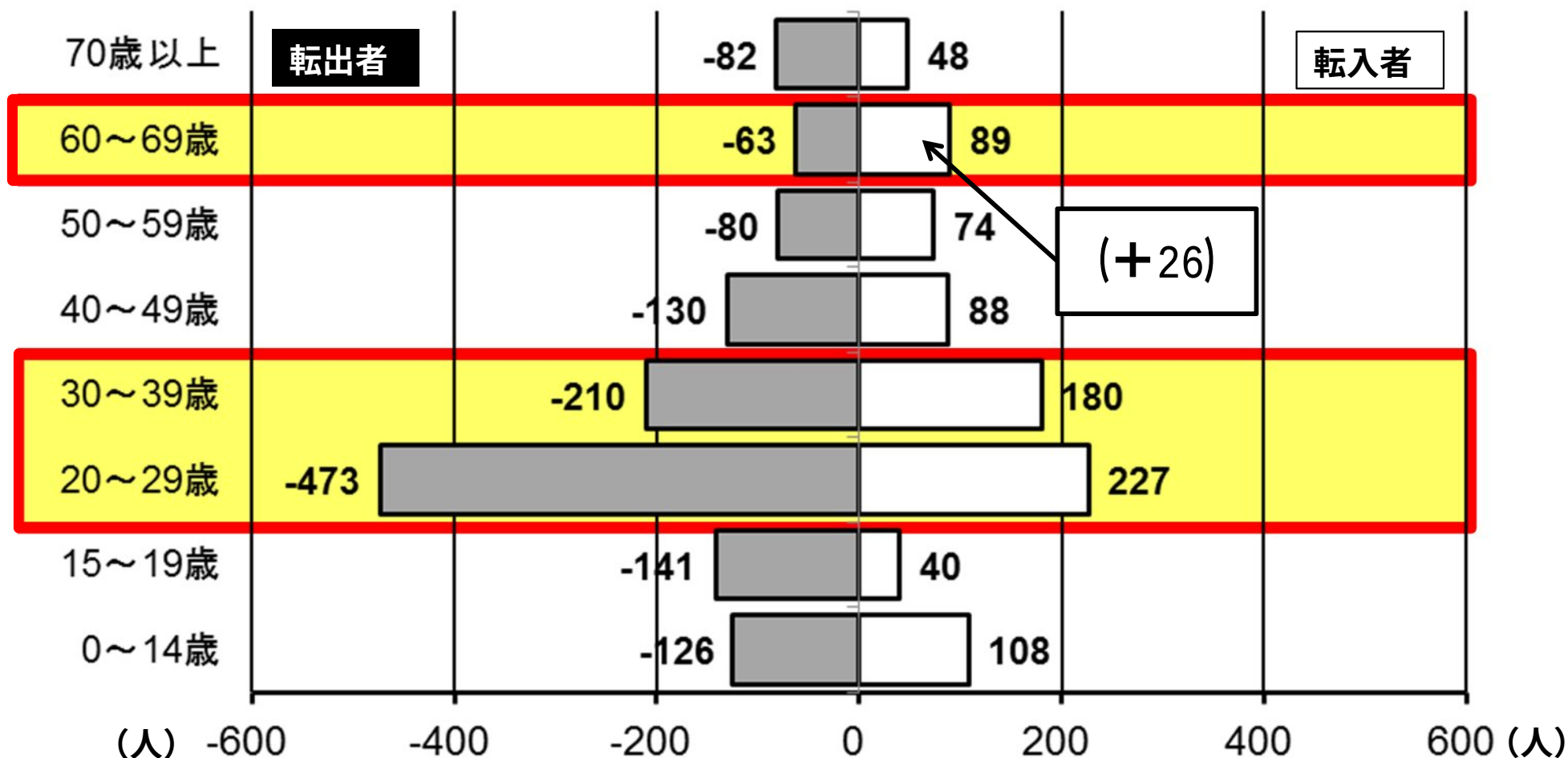
価値観

2. 志摩市の可能性

○ 志摩市の社会増減に見出せる希望（１）

→ 志摩市に入ってくる世代は？

→ 20～39歳の若い世代が多い（転入者の約半数）



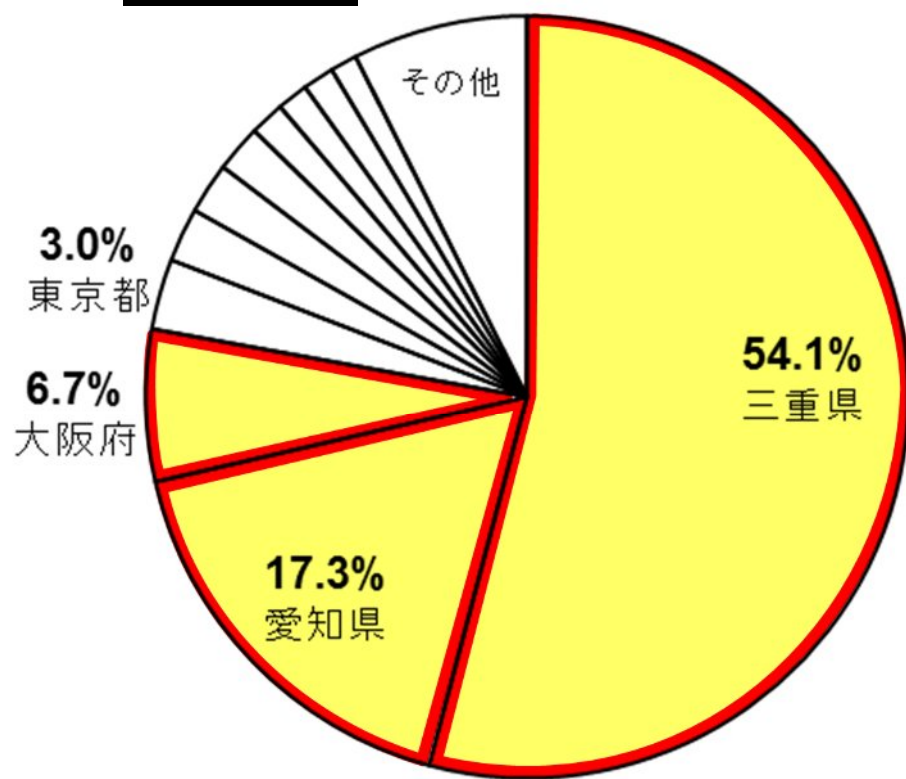
資料出所：住民基本台帳人口移動報告（平成26年度）総務省統計局

○ 志摩市の社会増減に見出せる希望（２）

→ どこに行き、どこから来るのか？

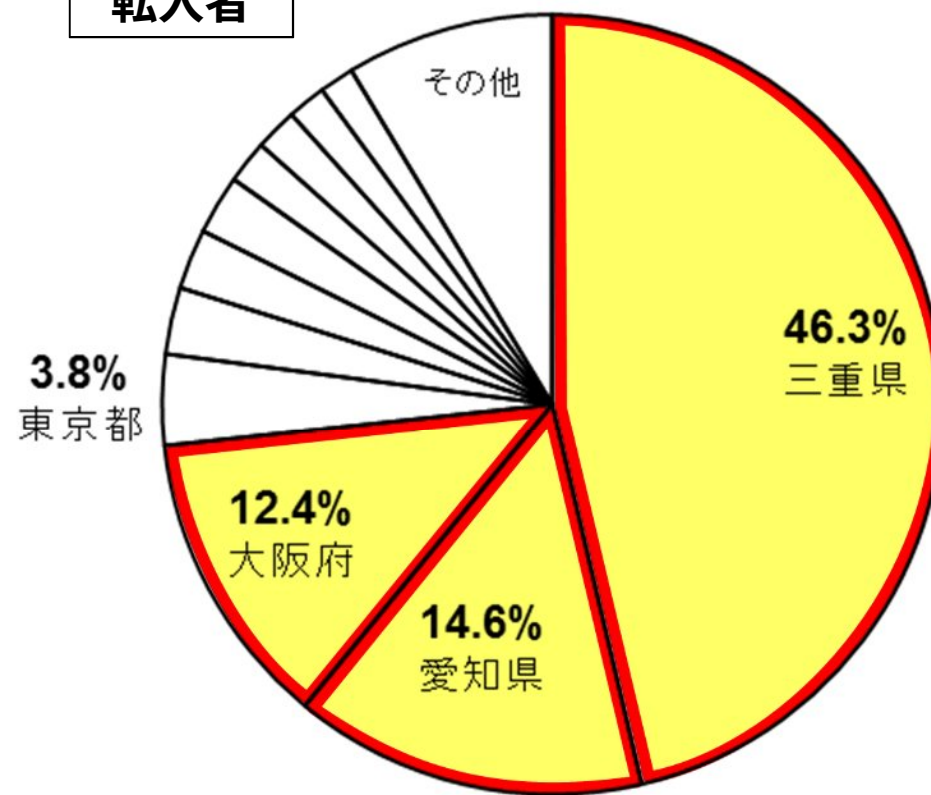
→ **三重県内、愛知県、大阪府**（転出者の約78%、転入者の約74%）

転出者



総数：4,147人

転入者



総数：2,565人

資料出所：国勢調査

○ 社会減を食い止めるには…

→ 社会増減に見出せる希望は2点。

- ◎ 志摩市への転入者は若者が多い。
- ◎ 志摩市から転出している人も、意外と近くに留まっている。

→ 見出せる希望から考えられることは…。

- ◎ 志摩市の若者には、志摩市から本当は離れたたくなくて、できることなら地元に戻って来たい、という人が多い。

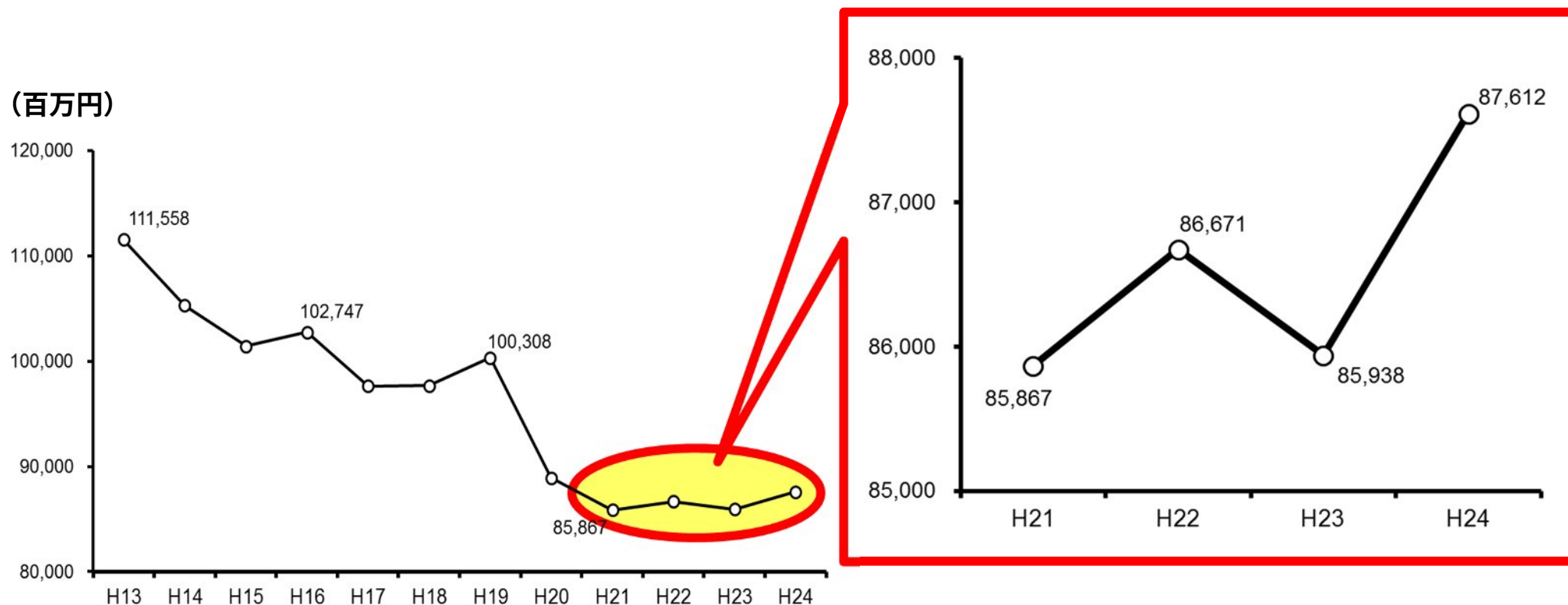
→ 志摩市に戻って来たい若者や移住者を増やすには…。

- ◎ 地域に若者の「働く場」を増やす。
- ◎ 地域で豊かに暮らせる成功事例を増やす。

○ 志摩市における産業総生産の推移

→ **ここ数年は、産業総生産は増加傾向にある**

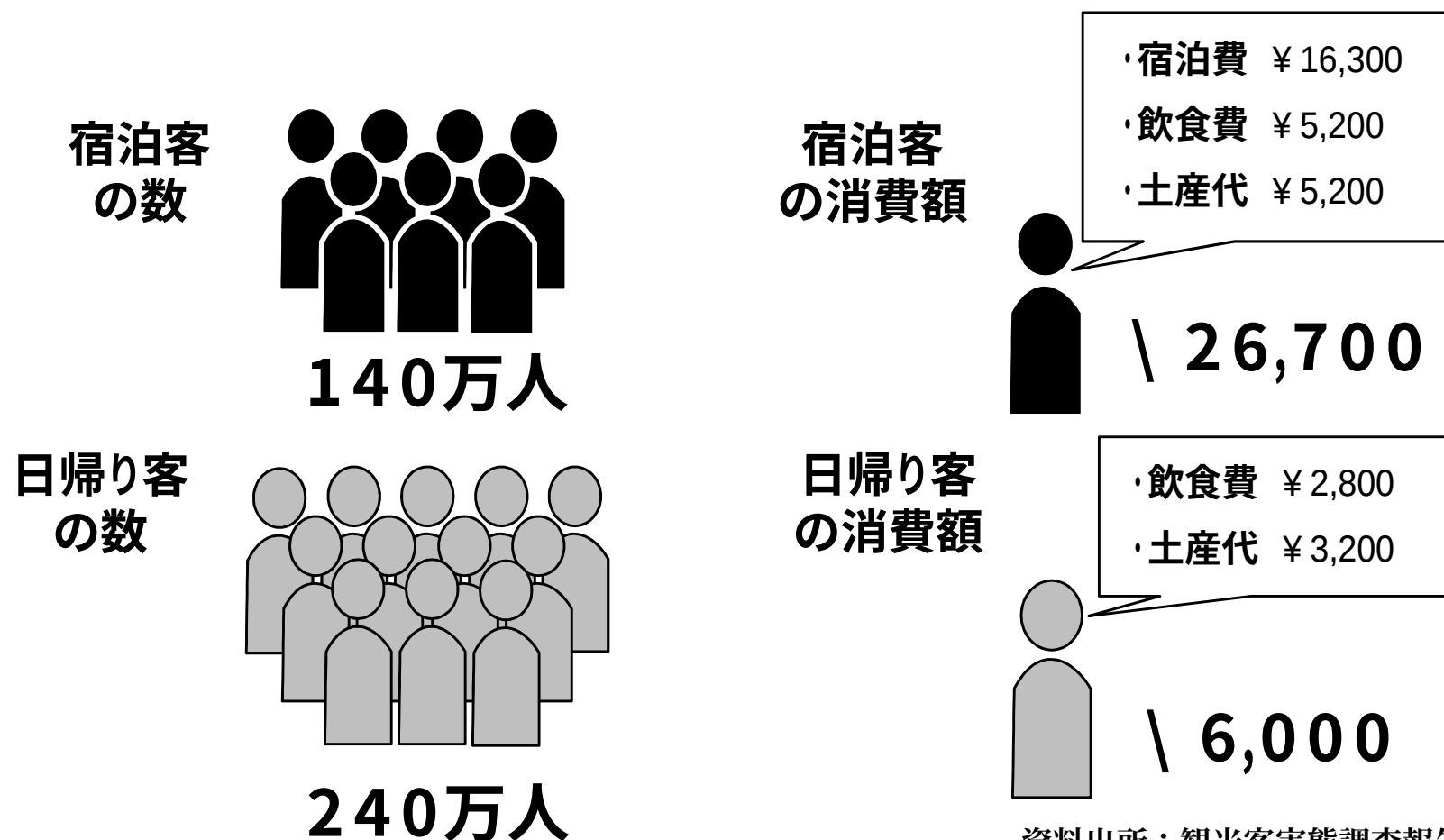
- ・ H21～H24で継続して増加（サービス産業、卸売・小売業）
- ・ H23に減少するもH21～H24では増加（建設業）
- ・ H21～H23で増加するもH24に減少（製造業、水産業）



資料出所：県民経済計算 経済活動別市町内総生産 三重県

○ 可能性を秘めている観光 → 【国内市場】

- 観光消費は大きな地域の収入
- 1人あたりの消費額の増加（1人1,000円増で…+38億円）
- 日帰り客から宿泊客への転換（1人変われば…+2万円）

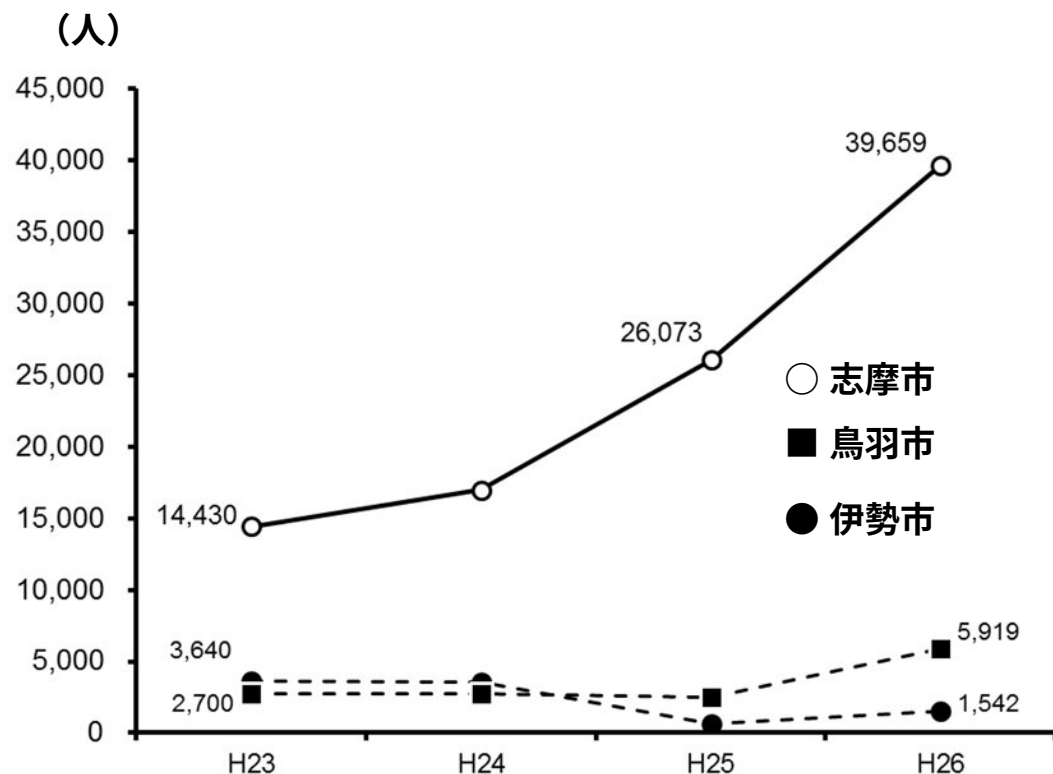


○ 可能性を秘めている観光 → 【国際市場】

→ のびしろのあるインバウンド

→ 観光消費額が高い欧州、急増が見込める東南アジア

● 志摩市を訪れる外国人宿泊客数の推移



● 出国別の外国人宿泊客数の推移

	(人)			
	H23	H24	H25	H26
台湾	5,570	7,870	10,494	17,702
中国	5,280	3,190	5,369	10,863
香港	1,880	2,650	5,137	3,759
韓国	1,060	890	1,690	1,493
シンガポール	0	250	234	1,217
タイ	10	130	195	1,045
欧州	130	470	493	840
北米	280	730	479	398
その他	190	730	1,791	1,098
合計	14,400	16,910	25,881	38,415

資料出所：外国人宿泊統計集計 観光庁・三重県

○ 可能性を秘めている観光 → 【地域の資源】

→ 志摩市が勝負して勝てる点

- ◎ その時にその場所にしかないものを、それぞれ違う形で、量に限りがあるけれど、手間暇かけて、自然に左右されつつ、ここにしかない方法で提供する



ストーリー性に富む → 観光資源に適している

→ 志摩市が勝負してもなかなか勝てない点

- ◎ いつでも、どこでも、同じものを、大量に、迅速に、安定的に、効率的に提供する



ストーリー性に欠く → 観光資源には不適

○「ふるさと納税」に見る販路拡大の可能性

→ 志摩市の生産物は、関東（東京）で人気

※ 地物を使った加工品や高品質を維持している工芸品、志摩ならではの海産物など「本物志向」を満たすもの。

→ 志摩市への観光は、愛知と関西（大阪）で根強く人気

全体に占める 寄附件数割合（%）		各品目ごとに占める寄附件数の割合と全体に占める寄附件数の割合の差							
		ジャム	伊勢エビ	アワビ	的矢力キ	真珠	三重ナルミ	お米	宿泊券
東京	21.3	4.5	2.9	2.7	4.4	5.2	12.6	1.5	(12.1)
神奈川	7.5	3.2	0.1	0.3	5.0	2.7	(0.1)	1.1	(5.4)
千葉	4.1	3.0	(1.2)	0.0	(0.0)	2.2	(0.5)	(2.1)	(2.1)
埼玉	4.0	2.1	0.2	(1.2)	1.7	1.8	1.9	1.1	(3.7)
大阪	11.0	(2.7)	(1.0)	2.7	(0.2)	(3.7)	(4.3)	3.7	7.6
京都	3.4	(1.3)	0.2	0.1	0.0	(1.2)	(1.9)	1.7	3.0
奈良	2.3	(1.2)	(0.6)	(1.0)	(0.7)	(1.0)	(0.8)	(0.7)	3.3
愛知	12.7	(5.1)	(4.4)	(2.6)	(0.5)	(5.2)	(5.6)	0.0	13.5
寄附件数	10780	688	1408	458	912	2439	597	197	1904

資料出所：志摩市

※ 全体に占める寄附件数の割合よりも数値が大きいほど、その都府県民が特化して発注している。逆に数値が低いほど、発注が少ない。

○ 労働生産性や売上高を大きくする方法

→ 当たり前のマーケティング

- ◎ ターゲットを絞ってニーズを把握する
- ◎ 商品やサービスを開発し改良のための試行錯誤を繰り返す

→ 異業種間連携

- ◎ 宿泊業×飲食業、宿泊業×農業・漁業など
- ◎ 飲食業×農業・漁業、レジャー産業×農業・漁業など

→ 積極的な投資（※ 闇雲な投資ではなく、よく考えたうえで…）

- ◎ 経営者自らへの投資（知識、経験、知見を広める）
- ◎ 販路開拓や顧客獲得、職員研修などへの投資
- ◎ 施設整備や環境整備への投資

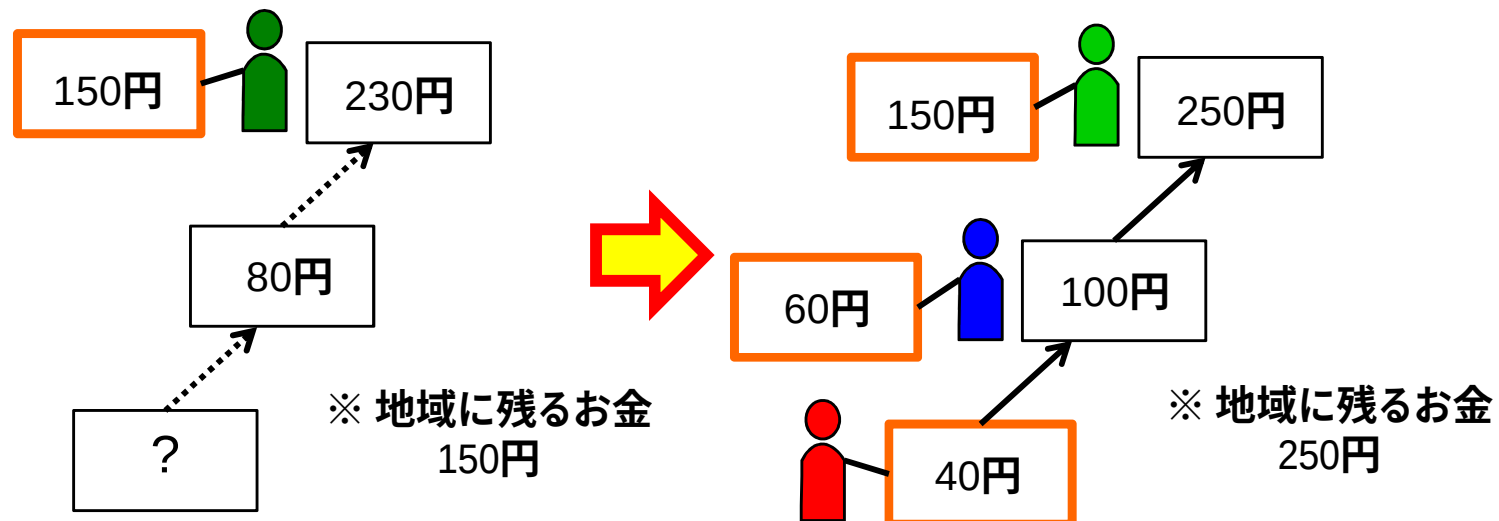
○ 働く場を増やす方法

→ 複数の職業に従事できる柔軟な労働条件の確立

- ◎ 様々な職業を兼業して1年分の収入を得る働き方
- ◎ 経営者の柔軟な判断と連携が鍵

→ 域内調達率の把握と向上

- ◎ 地域のを多く使うことで地域に残るお金が増える
- ◎ 地域の外から調達していた仕事を域内に創出できる



3 . これからの5年間

○ 30代とはどういう世代か？

→ あらゆるモノが減る時代を“生き抜く”世代が30代。

日本経済 地域経済 地域人口



・戦後復興の時代（昭和20年～30年）



・高度経済成長の時代（昭和30年～50年）



・バブル経済の時代（昭和50年～平成元年）



・バブル崩壊後の時代（平成元年～平成20年）



・人口減少の時代（平成20年～）

→ 減ることに適応しないといけない世代。

→ 適応する方法は多分2つ。

◎ あらゆるモノの質を上げること。

◎ 今までとは比にならない協力・連携をすること。

○ 地域に求められる 2つのチカラ

→ 地域社会の変革には2つのジリキの発揮が必要

→ 「地力」

- ◎ 広い意味での土地の力のこと。
- ◎ 農産物・水産物を生産する土地の生産力、
特異な自然景観をもつ土地の魅力、
様々な文化・伝統・伝説が息づく土地の魅力など。

→ 「自力」

- ◎ 地域の人々の力のこと。
- ◎ 様々な技術・アイデア・知識を持った個人の力、
多様な人達が連携した力など。

○ 一人ひとりに求められる2つのチカラ

→ 価値感の変革には2つのソウゾウリョクが必要

→ 「想像力」

- ◎ 自分や他人、社会や地域のこれからはどうなるか、自分の行動はどう未来につながっているか、相手は何を考えているかなどについて考える力。
- ◎ 様々な「こと」を考えて、それらをつなげ、これからの「こと」を見据える力。

→ 「創造力」

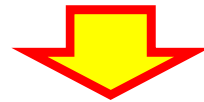
- ◎ 想像することを具体化、具現化する力。
- ◎ 図やイラスト、文章として他人が見てもわかってもらえるような「もの」を生み出す力。

○ これからの5年間で重要

→ これからの5年間でどう生きたかが地域を決める。

- ◎ 想像力と創造力を必死になって連動できたかどうか。
- ◎ 自分で考え、選択し、行動して、何か1つでも誰かを納得させる経験ができたかどうか。

【もしもできなかったら…】



- 40代、50代になったときに自分を変えにくくなる。
- 時代の変化に適応できない“大人”になってしまう。
- そういう“大人”が地域を止めることになってしまう。

○ 4つのお願い

→ 感性に磨きをかけよう!!

- ・想像力を高めるために、多くの体験をして、多くの本を読んで世界を知り、自分の窓を広く大きくして、そして開かれた状態にしてください。

→ 論理的に考えをまとめることに慣れよう!!

- ・創造力を高めるために、自分の考えや想いをまとめて、それを他人になってわかりやすいかどうかを自己採点する訓練をしてください。
- ・友人と徹底的に議論するのも良いです。

→ 「生きたお金」をなるべく使おう!!

- ・自分の力を高めるため、誰かの力になるため、地域を応援するためなど、そのお金がどう生きていくのかを想像したお金の使い方をしてください。
- ・消費者として、消費行動がそのまま地域経済に直結することも忘れてはいけません。

→ 何かあったら「予言の自己成就」を思い出す!!

- ・「未来はこうなる。」という確信が強ければ強いほど、そうなる確率が高くなる、という社会心理学の言葉です。

○ 買って読んで欲しい本

→ 下記の本は面白いので読んでみてください（是非）。

- ◎ 稼ぐまちが地方を変える 木下 斉
- ◎ 新・観光立国論 デービット・アトキンソン
- ◎ 地域プラットフォームによる観光まちづくり . . . 大社 充
- ◎ 星野リゾートの教科書 中沢 康彦
- ◎ なぜローカル経済圏から日本は甦るのか 富山 和彦
- ◎ ふるさとを元気にするしごと 山崎 亮
- ◎ ローカル志向の時代 松永 桂子
- ◎ 里山資本主義 藻谷 浩介
- ◎ 小さい農業で稼ぐコツ 西田 栄喜
- ◎ ぼくらのリノベーションまちづくり 嶋田 洋平
- ◎ 地方は活性化するか否か こばやし たけし
- ◎ 反骨の市町村 相川 俊英
- ◎ 地方消滅 増田 寛也
- ◎ 真珠の世界史 山田 篤美
- ◎ 銃・病原体・鉄（上下巻） ジャレド・ダイヤモンド

4．志摩市の地方創生

○ そもそも「地方創生」とはどのような取り組みか？

→ 地域が消滅してしまったら、困るのは誰か？

- ◎ 地域のこと好きな市民や関係者
- ◎ 地域を主な活動の舞台にしている事業者

→ 地域の消滅を防ぐには、誰の取り組みが必要か？

- ◎ 地域が失われたら困る主体（＝上記の市民、関係者、事業者）

→ 地域の消滅を防ぐ「地方創生」とはどのような取り組みか？

- ◎ 地域を愛する主体が、愛する地域を、
自分たちの手で、暮らしやすく、豊かにする取り組み

○ 志摩市の地方創生に関する基本的な考え方

→ 地方創生の担い手は「市民」や「民間事業者」

- ・ 地域を担う市民や民間事業者が本気にならなければ、地方創生は成功しない。
- ・ 従来の行政頼みのまちづくりや補助金だけに依存した事業振興では地域の再生は望めない。
- ・ 市民や民間事業者の「自ら地域のために動こうという意欲」と「小さいことからでも実現させようとする活力」が、地方創生を成功させるためには重要。

→ 行政の役割は「仕組みづくり」と「支援」

- ・ 市民や民間事業者が主体となって駆動し、自走できる取り組みを地域におこすための仕組みを構築すること。
- ・ 動き出す各取り組みの初動もしくは加速を支援すること。
- ・ 市民や民間事業者の「やる気」を「本気」にして、「動き」に変えていくための仕組みづくりと支援。

→ 「志摩市独自の視点」を踏まえる

- ・ 志摩市独自の視点
 - 1) 志摩市の6つの強みを強化する。 2) 「まちの勢い」の低下をもたらす4要因の循環を断つ。
 - 3) 社会減を止める6対策を講じる。
 - 4) 新しい里海創生によるまちづくりに寄与する。 5) 「にぎわい」がめぐる景観まちづくりに寄与する。

○ 志摩市における「まち・ひと・しごと創生」

→ 志摩市の「まち・ひと・しごと創生」の内容

- ・地域の食材、産業、文化、自然の多様性を理解し、愛し、生かすことのできる力強さを備えた市民を育成して、支えあい競い合える多様な人材を確保することで、地域の魅力や資源の再発見を促進し、地域を代表する産業の強化と新たな産業の創出を図り、一人ひとりが個性を発揮できる潤いのある豊かな地域社会を形成することで、更なる人材の育成や確保につなげるという「まち・ひと・しごと」の循環を起こすこと。

(※志摩市創生総合戦略（原案）より引用)



ひとの育成

ひとの確保

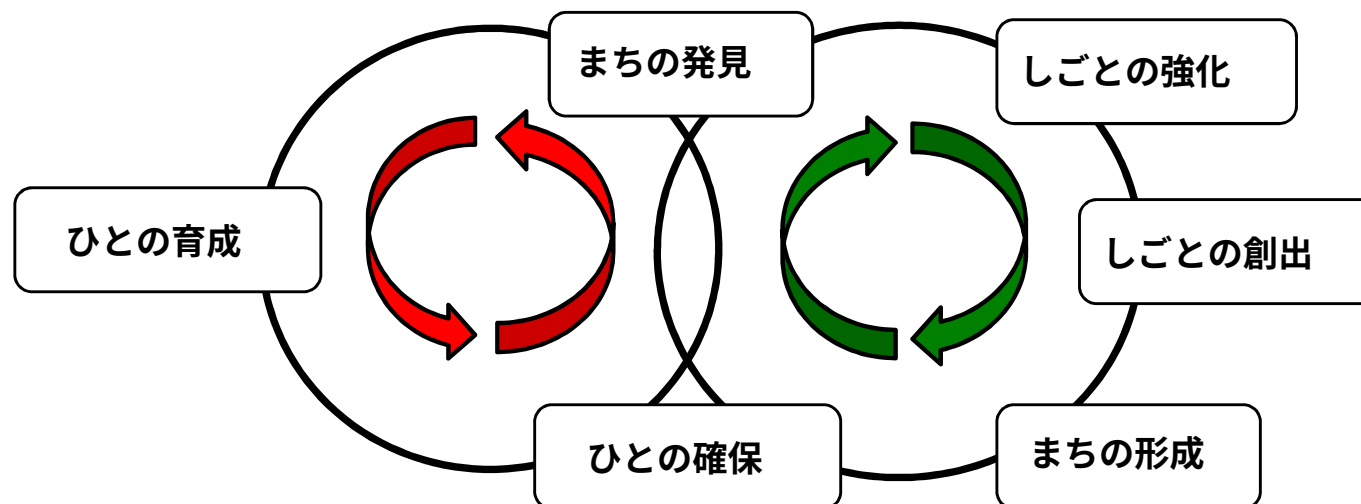
まちの発見

しごとの強化

しごとの創出

まちの形成

→ 6つの政策分野の循環



○ 具体的な施策一覧

ひとの育成

5 事業

- 1-1. 中学生と高校生の地方創生参画推進事業
- 1-2. 地域支援ボランティアでポイント事業
- 1-3. がんばる市民を応援する事業
- 1-4. 地域とのつながりによる県立高校の魅力向上事業
- 1-5. 二十歳からの健康貯蓄事業

しごとの強化

7 事業

- 4-1. ふるさと応援寄附推進事業
- 4-2. 生産物の販路拡大による農林水産業活性化事業
- 4-3. 農業生産者の強化と育成事業
- 4-4. 新たな漁業者を受け入れる漁港整備事業
- 4-5. 外国人観光客誘致推進事業
- 4-6. 地域をめぐる観光消費拡大事業
- 4-7. 未利用資源を活用した漁業振興事業

ひとの確保

9 事業

- 2-1. 若者の希望を叶える志摩づくり事業
- 2-2. 若い女性が暮らしやすい志摩づくり事業
- 2-3. 移住しやすい志摩づくり事業
- 2-4. 水産業の担い手受け入れ推進事業
- 2-5. iJU（移住）ターン促進のための奨学金返済補助事業
- 2-6. 若者の集いと出会いの支援事業
- 2-7. 多子世帯を応援する保育料無償化事業
- 2-8. 家主と移住者のためのリノベーションによる空き家活用事業
- 2-9. 若者世代の移住促進事業

しごとの創出

6 事業

- 5-1. 地域の仕事カケモチ型就業推進事業
- 5-2. 志摩市を元気にする起業家支援事業
- 5-3. 鵜方駅周辺の賑わい復活事業
- 5-4. 志摩市におけるガイド業の創出事業
- 5-5. 高齢者と障がい者のための観光サービス創出事業
- 5-6. 6次産業化推進事業

まちの発見

7 事業

- 3-1. 志摩市ホームページの魅力向上事業
- 3-2. きらり志摩びと紹介番組放映事業
- 3-3. 志摩びと結ぶ志摩市広報事業
- 3-4. 地域の資源を活用するためのプラットフォーム創出事業
- 3-5. 志摩の魅力の発信コンテンツ制作支援事業
- 3-6. 農産物の生産実態把握事業
- 3-7. 里海読本編集事業

まちの形成

8 事業

- 6-1. 伊勢志摩国立公園の魅力向上事業
- 6-2. 三世代同居推進事業
- 6-3. 賢島の魅力発信力向上事業
- 6-4. 地域の特色を生かしたスポーツのまちづくり事業
- 6-5. 地域の魅力を見つけて生かす観光まちづくり事業
- 6-6. 生活拠点づくり事業
- 6-7. これからの志摩市の地域交通検討事業
- 6-8. 子どもの医療費がかからないまちづくり事業

○ 多様な「つながり」で地域に力を取り戻す

- 現状は様々な「つながり」が不足している
- 個の「つながり」から多面的な「つながり」を紡ぐ
(点 → 線 → 面)
- それによって「地力」を生かす「自力」を地域に取り戻す

【現状のイメージ】

